

本校は、印旛特別支援学校本校とさくら分校において、「夢や目標の実現を目指し、健康でたくましい児童生徒の育成を図る。」ことを学校の教育目標とし、ユネスコスクール加盟から2年間、本校においてはESDを『地域との交流と発展、発信』と捉え、さくら分校においてはESDを『環境問題にどう向き合うか』と捉えて活動を進めてきた。ESDの実践を通して、地域との交流や、自助・共助の力を養い、発達段階に応じた地域との連携や主体的に考える力の育成を目標とした。

## 印旛特別支援学校（本校）「地域との交流」

小学部、中学部、高等部の全ての学部で、地域との交流学习を柱に全校で行事を実施した。①地域の方々との交流に係わる活動②交流及び共同学習③学習活動の発表に係わる学習を昨年度に引き続き行った。

### ①地域の方々との交流に係わる活動

全校行事である「クリーンいんば」では、近隣の清掃活動を行った。実際に地域住民の参加もあり、学校と地域が一丸となって活動を行っている。

中学部では、近隣の大学との共同授業として、大学生とテント張りや野外調理などの活動を行っている。4年目を迎え、互いに定着してきている活動である。

また、中学部1年生は今年度より生活単元学習で「いんばカンパニー」という単元に取り組んだ。清掃の練習を重ね、近隣自治体の自治会館清掃の受注を全員でしっかりと取り組むという単元である。自治会館での清掃時には、自治会の方々と話す機会も多く、「ありがとうって言ってもらえて嬉しかった」、「掃除を褒められた」という交流の喜びを感じる生徒が多くいた。ここでの中学部1年生と自治会の方々との交流が発展し、2月には本校で中学部生徒、自治会の方々、近隣大学の学生とパラリンピックスポーツである「ボッチャ」を通じた交流会を行う予定になっている。

高等部は、近隣小学校において、学んでいる清掃技術を生かし、清掃活動や現場実習の一環として活動をしている。

### ②交流及び共同学習

小学部は年に四回ほど、共同授業や、歌の発表などで近隣小学校との交流及び共同学習を進めている。中学部もまた、隔年で、それぞれ本校と近隣中学校が行き来しながら、交流学习をし、ゲームや授業を行っている。

今年度は、近隣中学校の生徒が本校中学部を4回訪れ、作業学習を通しての交流をした。本校生徒の中には、小学校の時に同じクラスだった友達と会えて笑顔で関わる様子が見られた。

### ③学習活動の発表に係わる学習

全校行事のいんば祭りでは、各学部の学習発表の場として様々な発表が行われている。劇の発表や、さくら分校も合わせて作業製品の販売、買い物学習や演奏、また、卒業生に係わる福祉施設からも出店等があり、地域の方に広く学校を知って頂く機会ともなった。

その他、よしきりフェアとして、近隣の商業施設にて、中学部や高等部は作業製品の販売を行い、多くの人が訪れる販売会となっている。

## 印旛特別支援学校（さくら分校）「環境問題にどう向き合うか」

環境問題の、知る、取り組んでみる、を柱に①作業学習を通しての活動、②グループ調べと発表を通した地域理解学習、を行った。

### ① 作業学習を通しての活動

さくら分校では、職業コースのうちの2つ、「フードデザインコース」と「農園芸コース」で生ゴミ処理機の活用をした。フードデザインコースの活動で出された生ゴミを利用して、農園芸コースで利用している畑の堆肥として使用した。ゴミをゴミ袋に入れて捨てるというだけで無く、活用できるという事を具体的に学ぶ機会になった。

### ②グループ調べと発表を通した地域理解学習

グループに分かれ、気になる環境問題について調べたり、話し合ったりする活動をした。環境問題の実態を知るだけでなく、生徒同士でそれらに対して「今、私たちができること」を考えてポスターにまとめた。自分たちが住む地域にも環境問題があることを知る機会にもなり、環境問題への意識が高まった。